

中公新書『物語 カタルーニャの歴史 増補版』本文脱落について

『物語 カタルーニャの歴史 増補版』の本文中に左記の脱落がありました。お詫びして訂正いたします。

207頁5行目「その背景には次のような歴史がある。」の次行に次の段落を挿入して下さい。

十七世紀末、スペインの没落ぶりはもはや誰の目にも明らかであった。ハプスブルク家最後の王となったカルロス二世（在位一六六五～一七〇〇）は、病弱な上に愚鈍とそれを象徴するような人物であった。おまけに性的に不能で、嫡子をもうけることができなかった。王の異母姉はフランスの太陽王ルイ十四世に嫁ぎ、妹は神聖ローマ皇帝レオポルド一世に嫁いでいたため、ブルボン家とオーストリア・ハプスブルク家はともにスペイン帝国を狙って、病弱な王の死を今か今かと待ちかねていた。